

# LM corsa

60

OTGG  
MOTORSPORTS

GT300



A.Iida



H.Yoshimoto

OTGG MOTORSPORTS × INGING MOTORSPORT

RESULT 21th

WEATHER 3日:曇り/ドライ 4日:晴れ/ドライ

ENTRY 29台 出走:29台

CAR SYNTIUM LM corsa RC F

## General comment

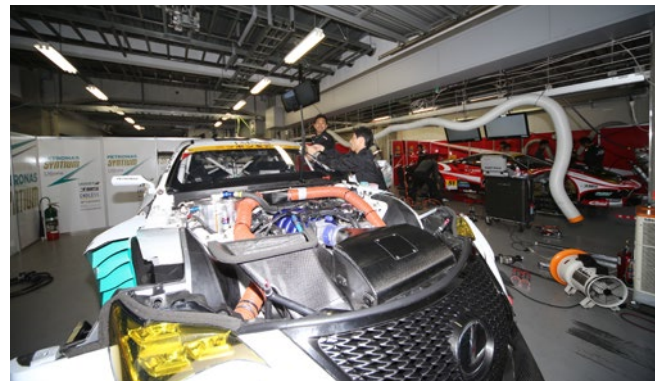


AUTOBACS SUPER GTシリーズの第2戦、「FUJI GT 500km RACE」が富士スピードウェイで開催され、ゴールデンウィーク真っただ中のレースとあって、文字どおり大観衆が見守る中での戦いとなった。

LM corsaが飯田章と吉本大樹に託した「SYNTIUM LM corsa RC F GT3」は、岡山国際サーキットで行われた開幕戦で、しっかり完走を果たしていた。この完走というのが重要なポイントで、データの蓄積やメカニックが経験を積むことが、やがて大きな実を結ぶからだ。レクサスRC F GT3がFIA-GT3車両ということもあり、シーズン中の改造が許されないのはご存知のとおり。そのため、デビューイヤーの昨年は苦戦が強いられていた。

今年のアップデートはごく小範囲であったものの、ならばできることを最大限に、とばかりにOTGGのメカニック全員が発奮。それこそ重箱の隅を突くような作業に、ドライバーのふたりは感謝の念を抱いて走り続けた結果、無事チェッカーフラッグを受けることに。その結果、チーム全体の結末は、昨年以上に高まったからだ。

もちろん、第2戦の舞台、富士スピードウェイは国内最長のストレートを備える以上、前回以上の苦戦は必至。だが、ひとつでも上の順位を得るべく、飯田と吉本は走り始めとなる公式練習からセットアップを着々と



進めていく。最初に「SYNTIUM LM corsa RC F GT3」のステアリングを握ったのは吉本。走行開始から間もなく1分40秒台に乗せるも、そこからの伸びがままならず。何度もピットに入ってセットを変更し、吉本は1分40秒570を記録した後、飯田と交代することとなった。

ほぼ1時間を経過して、ピットでのセットアップが進められる間、赤旗が出されて計測は中断。再開と同時に飯田はピットを離れていく。一発の速さは求めるべくもない状況の中、飯田は決勝重視のセットで走り、タイムの安定をはかっていく。その結果、1分41秒374をベストに、決勝には少なからず光明を見出すこととなった。





## 予選結果 29th ( 1'39"150 )



予選はノックアウト方式で行われ、GT500とGT300がそれぞれ15分間のQ1を走行し、GT300では上位14台が、続く12分間のQ2に進出を許される。今回のQ1担当は吉本。計測開始と同時にピットを離れたのは、このレースウィーク、大観衆の熱い視線に刺激されたのか、スーパーGTに限らず赤旗中断が相次いだからに他ならず。

2周をじっくりウォームアップに充てて、いよいよアタックを開始した吉本。セクタータイムは公式練習を上回り、ピットで見守るスタッフはタイムアップの確証を得る。そして記録されたのは1分39秒150と、ここまでの最速タイム。走りでベストを尽くせたこともあり、その時点で吉本はピットに戻ってくる。もし、この後に赤旗が出れば結果もまた違っていただろうが、残念ながら出ずじまいのうちにタイムアップする車両が続出。その結果、29番手に留まり、Q2で待つ飯田にステアリングを託すことなく、予選は終了となった。



## 決勝結果 21th ( 98 laps )



直前の天気予報では、決勝当日は雨に見舞われるとされ、もし本当にそうであればウェットコンディションと「SYNTIUM LMcorsa RC F GT3」との相性は決して悪くないだけに、恵みの雨とすることが期待されたが、いざサーキットにたどり着いてみると、風こそ強いが、強い日差しが注がれているという……。実際に強い雨が夜半に降ったものの、早朝まではやんで、フリー走行が行われる頃にはほぼドライコンディションとなっていた。

そのフリー走行は吉本から走り始め、7周を走行した後に飯田へとバトンタッチ。そこで飯田はエンジンに違和感を覚え、指摘を受けたメカニックたちがチェックしたところ、トラブルが生じていることが明らかに。そのまま決勝を走っては、もはや目標とする完走さえおぼつかないだけに、急ぎょエンジン交換が行われることとなった。正直なところ、ピットスタートを強いられることも覚悟していた飯田と吉本ながら、メカ



ニックの懸命な作業によってグリッドに並ぶことどころか、直前のウォームアップさえ走ることが可能に！ その様子は、まさにドラマだった。

これを意気を感じたスタート担当の吉本は、オープニングの1周だけで3台をバスして26番手に浮上。その後もバトルを重ねつつ、周回をこなしていく。前走車のアクシデントもあり、15番手にまで上がり、状況としては順調そのものだった。しかし、それから間もなくGT500との接触があり、ボンネットがわずかながらも浮き上がってしまう。さらに、それとは別に左フロントタイヤにトラブルが発生したため、25周目に飯田と早めにバトンタッチ。ボンネットの修復を強いられる間に大きな遅れを取る事となり、あとは淡々と周回を重ねていくことに……。69周目に再び吉本が乗り込み、98周を走ったところでチェッカーフラッグが振られることとなった。

交換されたことで、心配されたエンジンのトラブルは生じず、21位とはいえレースを完走できたことの影響は、極めて大きいと言えるだろう。次回のレースは本来ならばオートポリスだったのだが、熊本地震の影響で中止となり、他のサーキットでの代替レースは改めて発表されることとなった。その結果、次回のレースはスポーツランドSUGOとなる。



## Director's comment



チーム監督

小林 敬一

Keiichi  
Kobayashi<http://www.koba-pla.net/>

今回、レース前にクルマをリフレッシュしてきたことで、クルマのフィーリングそのものは岡山よりずっと良くなっていて、ちゃんとセットアップができる状態で、しっかりスケジュールをこなすことができました。ただ、今日の朝のウォームアップでエンジンに不安な兆候が出ていたので、積み替えたんです、通常こういう作業ってファクトリーでやると8時間かかるので、スタートには間に合わなくても、やれることはしっかりやろうということになったんですが、僕もビックリするぐらい素早い作業で、4時間弱でグリッドに並べてくれて。レースはいろいろありましたが、今回はすごいものを見せてもらいました。まわりに自慢できるぐらいのことをやってのけてくれて、僕も感動しました。

## Driver's comment 1



ドライバー

飯田 章

Akira  
Iida<http://akira.jp/>

今年の目標は完走なので、ドライバーの要望に対応して、エンジンを素早く交換してくれたチームのみんなに感謝しています。いろんな作業をパーフェクトにこなせるようになっていて、この長丁場のレースを何もトラブルなく走りきれたのは、本当にうちのチームのすごいところなんじゃないかと思います。レースの内容は、とてもレースに参加しているようなペースじゃないけど、こうやって終わってみればそこそこの順位で、最下位ではなかったですからね。これから暑くなればなるほど、僕らは条件的に厳しくなるんですが、何とか頑張っていきます。

## Driver's comment 2



ドライバー

吉本 大樹

Hiroki  
Yoshimoto<http://www.hiroki-yoshimoto.com/>

今回、クルマのフィーリングは前回に比べると、かなり良くなっていました。タイムはストレートの長い富士ということで苦しいながらも、予選はいいラップは刻めたと思うんですが、タイム差はすごくポジションは変わらずで……。そんな中、決勝朝のフリー走行でエンジンにトラブルが出て、そのまま走ればリスクもあるし、もしブローでもしたら他のチームに迷惑もかかっちゃうので交換しようということになって。一生懸命作業してくれた甲斐あって、本当に短時間でグリッドを並べてくれたから、そういうドラマがあるとドライバーは燃えますよね？ 走り出してすぐ、決勝では他のクルマと一緒にレースできるんじゃないかと思っていて、実際スタートから何台か抜けましたし、バトルもちょっと楽しめました。

